



研究開発や人材育成施設を拡充

ウイズソルが新社屋に移転

非破壊検査、熱処理工事等を行う(株)ウイズソル(中野克己社長)は先月10日、西区南観音6-2-13の新社屋(写真)に移転し、営業を始めた。

新社屋は、旧第1本社

と第2本社の機能を統合。

経営の効率化を図るほか、設備を拡充した。これま

で第2本社には子会社の(株)ネット・エックスが同

居していたが、年内をめ

どにネット・エックスが

引き続き自社での装置開発に注力する。開発ラボの隣には人材育成のためのトレーニング室を設けた。非破壊検査で必要とされる有資格者の育成や、装置の扱い方を習得する。中野社長は、「新社屋に移転し、社員の働きやすさに直結した。モチベーシ

第2本社跡地に新社屋を構える計画。ウイズソルの新社屋は、3階建て、延べ床面積2800平方メートル、敷地面積1700平方メートルとなっている。

非破壊検査において全

国トップクラスのシェアを誇る同社は、高い技術力を活かし検査装置の自社開発も行っており、新社屋には開発ラボを設置。

ヨンも上がっているのではないか」と話している。
また同社は新しい取り組みとして、今年からドローンを活用した産業用インフラの設備点検に乗り出す。既にテスト飛行を終え、今後はドローン操縦に熟練した技術者のもと、設備の簡易的な点検に役立てる。